

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年4月8日(2010.4.8)

【公開番号】特開2008-259622(P2008-259622A)

【公開日】平成20年10月30日(2008.10.30)

【年通号数】公開・登録公報2008-043

【出願番号】特願2007-103842(P2007-103842)

【国際特許分類】

A 6 1 B 6/03 (2006.01)

G 0 6 Q 50/00 (2006.01)

A 6 1 B 6/00 (2006.01)

A 6 1 B 5/055 (2006.01)

A 6 1 B 5/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/03 3 6 0 B

G 0 6 F 17/60 1 2 6 G

A 6 1 B 6/00 3 5 0 A

A 6 1 B 5/05 3 8 0

A 6 1 B 5/00 G

G 0 6 F 17/60 1 2 6 Q

【手続補正書】

【提出日】平成22年2月24日(2010.2.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

同一の被写体を撮影して得られた、過去医用画像と該過去医用画像を撮影した時より後に撮影した現在医用画像のうちいずれか一方の画像上に現れた異常陰影の大きさを計測する第1の計測手段と、

前記現在医用画像と前記過去医用画像のうちの他方の画像上で前記異常陰影の現れた位置に対応する位置に現れた異常陰影の大きさを計測する第2の計測手段と、

前記計測した2つの異常陰影の大きさの変化を表す文字列を生成して、該文字列を前記過去医用画像と前記現在医用画像の症例に関するレポート文に含むファイルを出力するレポート出力手段とを備えたことを特徴とするレポート作成支援装置。

【請求項2】

前記一方の画像上の異常陰影の位置を入力する入力手段をさらに備え、

前記第1の計測手段が、前記入力された位置に現れた異常陰影の大きさを計測するものであることを特徴とする請求項1記載のレポート作成支援装置。

【請求項3】

前記過去医用画像および前記現在医用画像が前記被写体を所定のスライス間隔で撮影して得られた複数の断層画像からなるものであり、

前記過去医用画像と前記現在医用画像の間で、前記断層画像のスライス位置を位置合わせする位置合わせ手段とをさらに備え、

前記第1の計測手段および前記第2の計測手段が、前記位置合わせ手段により位置合わせされた断層画像のうち対応する前記過去医用画像の断層画像と前記現在医用画像の断層

画像から前記異常陰影の大きさを計測するものであることを特徴とする請求項 1 または 2 記載のレポート作成支援装置。

【請求項 4】

コンピュータを、

同一の被写体を撮影して得られた、過去医用画像と該過去医用画像を撮影した時より後に撮影した現在医用画像のうちいずれか一方の画像上に現れた異常陰影の大きさを計測する第 1 の計測手段と、

前記現在医用画像と前記過去医用画像のうちの他方の画像上で前記異常陰影の現れた位置に対応する位置に現れた異常陰影の大きさを計測する第 2 の計測手段と、

前記計測した 2 つの異常陰影の大きさの変化を表す文字列を生成して、該文字列を前記過去医用画像と前記現在医用画像の症例に関するレポート文に含むファイルを出力するレポート出力手段として機能させるプログラム。